福岡市共働事業提案制度

事業の進捗状況資料（令和元年度）

福岡市共働事業提案制度　平成 29 年度採択事業

FUKUOKA
おさかなレンジャー
～海底ごみから博多湾を守れ！～

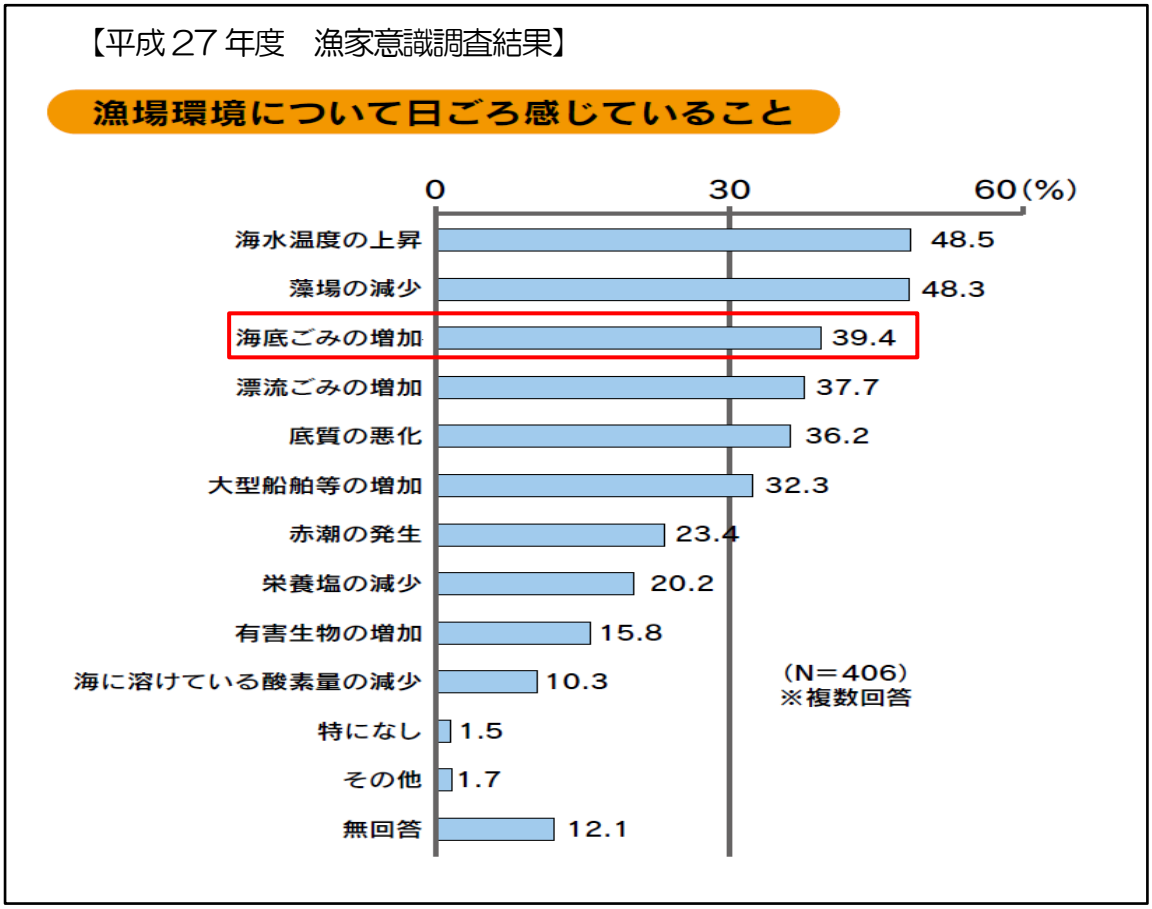
FUKUOKAおさかなレンジャー実行委員会

《一般社団法人ふくおかFUN　・　福岡市農林水産局水産部水産振興課》

1　共働のきっかけ・必要性

（1）福岡市水産振興課がこの事業に取り組む理由

博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに，多種多様な漁業が営まれ，新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが，市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し，一部が海底ごみとなり，漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では，漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているものの，平成 27 年度に市内の漁業者を対象に実施した「漁家意識調査」では，多くの漁業者が海底ごみの増加を感じているなど，漁業者と行政だけでは解決が困難な状況であり，市民の協力が必要である。



（2）（一社）ふくおか FUN がこの事業を提案した理由

（一社）ふくおか FUN は，主にダイバーが中心となり，自主事業において市民に向けて博多湾の現状や課題を伝えてきた。今後，博多湾をこれまで以上に豊かな海にしていくために，市民意識の向上に向けた動きに注力していきたいと考えていたが，博多湾の実情を調査するにあたり，単体では漁業者や関係機関との協議及び調整が難しいことからこの事業を提案した。本事業を行うにあたって，（一社）ふくおかFUNは水中調査・撮影の技術を有していること，写真展やイベント等を通じた市民啓発の機会が多いこと，メディアとの関わりも深いことがこの事業に活かせると考えた。さらに，海底ごみ問題を大人にもこどもにも身近な問題として認識してもらえるよう市民啓発方法としてキャラクターの制作・活用をアイディア提案するなど，より効果の高い事業展開に関しての企画提案力があった。

（3）共働事業のきっかけ・必要性

これまで，（一社）ふくおか FUN 及び水産振興課では，それぞれが個々に博多湾の海底ごみ削減に向けた活動を行っているが，（一社）ふくおか FUN では漁業者や行政機関等との協議・調整が難しく，水産振興課では海底ごみの「見える化」のための実態把握（水中写真や映像の確保）が困難であった。

このため，日頃から福岡市漁協等との調整を行っている水産振興課と，水中調査・撮影の技術やビーチクリーンアップなどの環境保全・啓発活動について多くの実績があり，メディアとの関わりも深い（一社）ふくおかFUNが共働することで，多様な主体を巻き込んだ効果的な市民啓発を行うことができ，海底ごみ削減の動きを活性化することができる。

2 事業目的

博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに，多種多様な漁業が営まれ，新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが，市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し，一部が海底ごみとなり，漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているが，回収されるごみの量は減少していないため，海底ごみ削減に向けた新たな取組みとして，海底ごみやごみそのものの発生を抑制するリデュースについての市民意識を高め，陸域から博多湾に流入するごみを減らし，漁場環境保全の観点から福岡の豊かな海を守る。

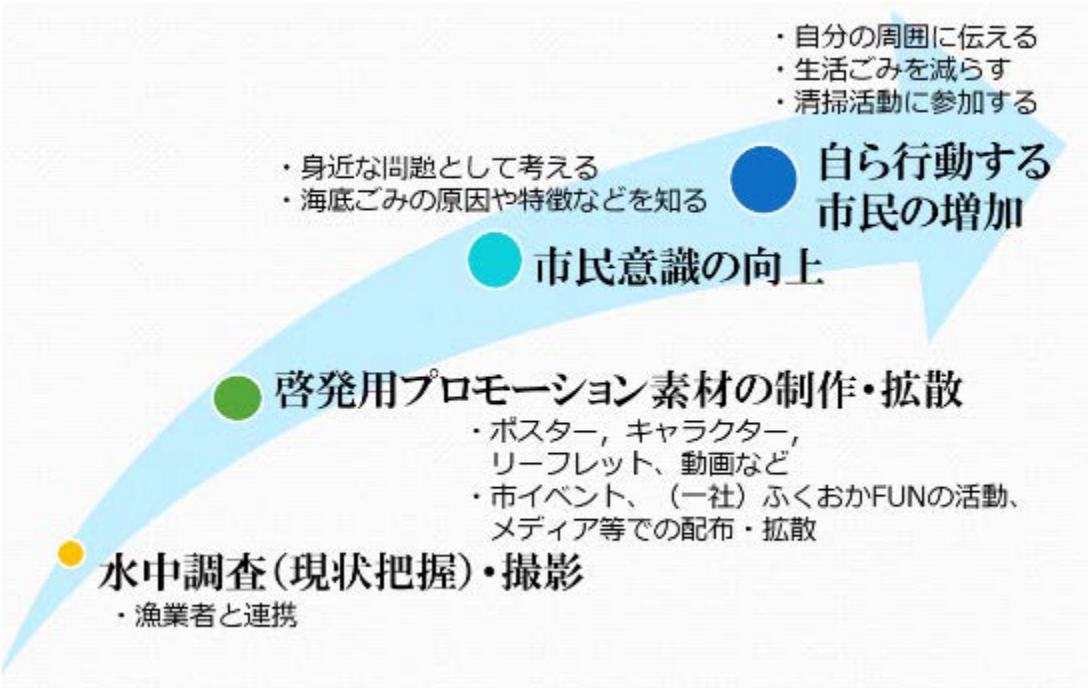
3 事業目標

【活動目標】

①博多湾の海底ごみの「見える化」

・博多湾内の水中調査・撮影を実施するとともに，海底ごみの分布状況や主なごみの種類等を把握し，啓発用プロモーション素材を制作する。

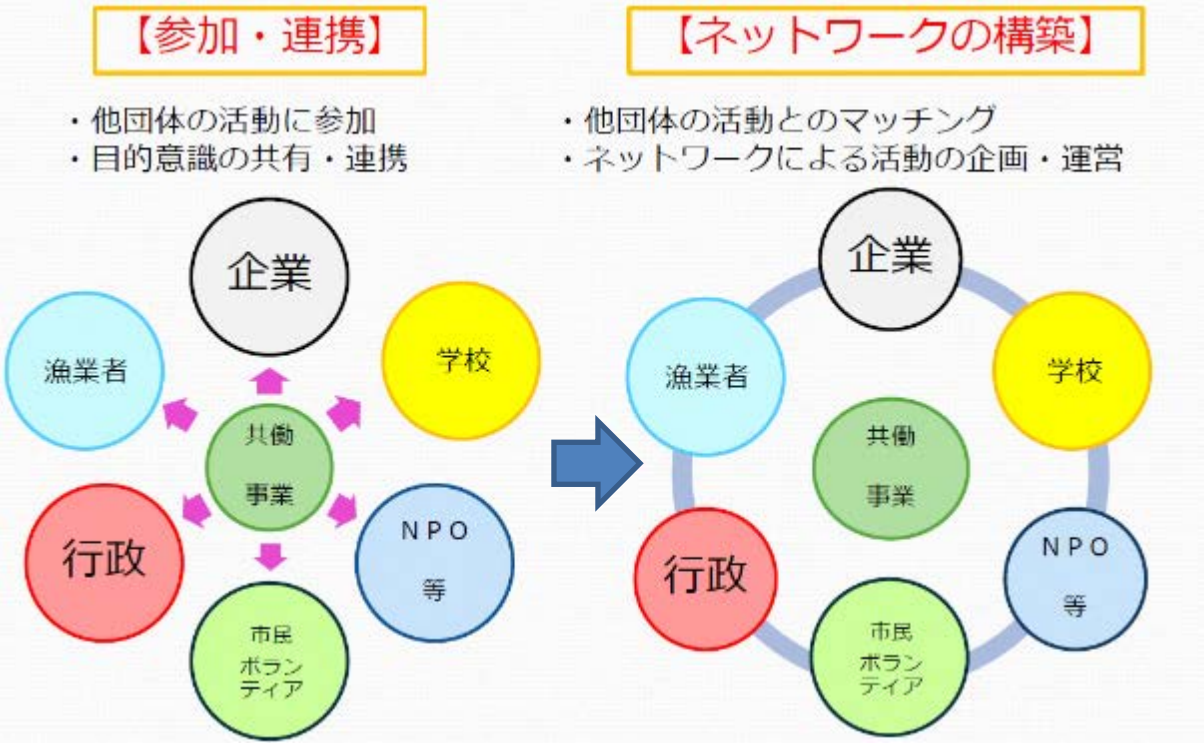
・制作したプロモーション素材を活用し，市や（一社）ふくおか FUN，他団体のイベントなどの様々な機会を捉え，効果的な広報・啓発を行う。



②他団体との連携

・他団体が実施する環境活動等に参加し，団体同士の繋がりを深める。

・NPO・行政・漁業者等多様な主体による海底ごみ削減のネットワーク構築を目指す。

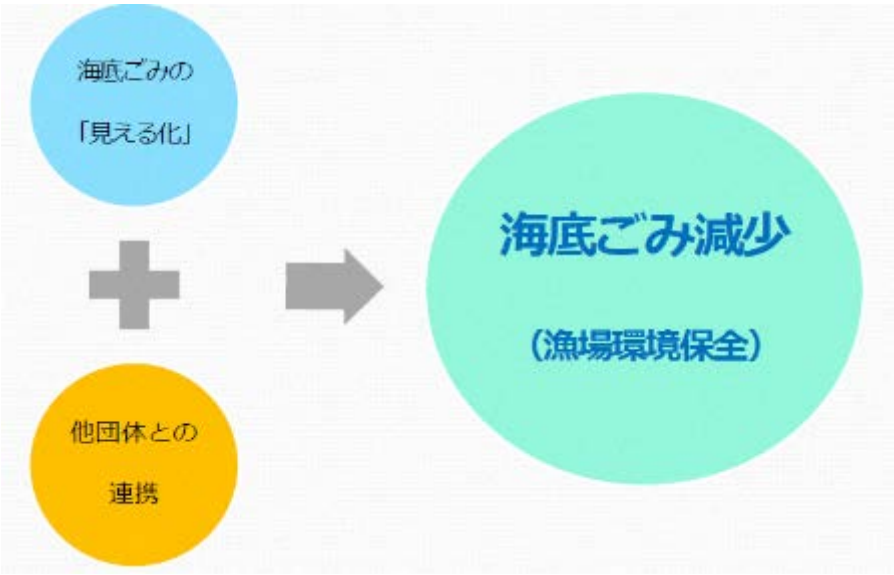


【成果指標】

成果指標	目標値
海底ごみについての市民意識	向上する
リデュースについての市民意識	向上する
漁場環境に関する漁業者意識 （海底ごみの増加を感じる漁業者の割合）	減少する

【最終目標】

博多湾の海底ごみや，リデュースについての市民意識が高まり，陸域から博多湾に流入するごみが減ることで，漁場環境が保全され，新鮮でおいしい魚介類が獲れる豊かな博多湾がより豊かになり，福岡市の水産業振興に寄与する。



4 事業内容

1. 博多湾の海底ごみの「見える化」

(1)博多湾内での水中調査・撮影

漁業者の協力のもと、博多湾に流入する河川の河口域を中心に、博多湾内の海底ごみ及び周辺状況調査・撮影を今年度も継続して行っている。昨年度は，海底の表層にあるごみを対象としていたが，今年度は海底を軽く掘り起こし，地中に埋もれているごみを中心に調査・撮影を行っている。昨年度と同じ調査地点については、ごみの流入状況や種類等の変化についても観察している。

●実施期間:平成 31 年4月～令和元年7月

●実施回数:計5回

●各調査地点及び実施時の状況は以下のとおり。(水中調査・撮影地点は以下図を参照。)

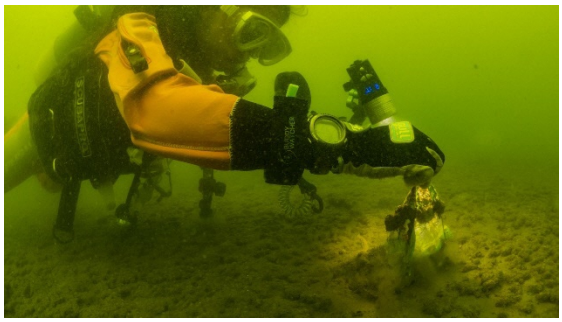
① **人工海浜沖** 4/9(火)10:10-10:22

② **人工海浜沖** 4/9(火)10:47-11:04

③ **多々良川付近** 6/11(火)10:40-11:37

④ **大雨後の河口(室見川河口域を陸上から調査)** 7/19(金)

⑤ **大雨後の海岸・河口(地行浜，長垂海浜公園，御笠川，多々良川を陸上から調査)** 7/23(火)



◎確認・撮影した海底ごみ

ペットボトル，ビニール袋，ドリンク缶，プラスチック食品トレー，お菓子類袋，包装紙、木片　等

（2）啓発用プロモーション素材の制作・拡散

今年度は、昨年度制作した動画，リーフレット，ポスターを一人でも多くの人の目に触れるよう拡散し、併せて児童向けの啓発素材や啓発方法の検討を進めている。

啓発にあたっては，昨年度キャラクター化した「FUKUOKAおさかなレンジャー」を随所に活用し、大人にもこどもにもより身近な問題として捉えてもらえるよう工夫している。

●実施期間：平成 31 年4月～令和元年8月

●啓発素材の拡散・新規啓発素材の進捗状況

・市役所庁舎内や市関連施設に掲出するとともに，市内小中学校などへの掲出依頼や，他団体との連携活動も含め，**リーフレットを約 3,300 部，ポスターを約 300 部配布**している。（8 月 31 日現在）

・**『マリンワールド海の中道』**や，**『福岡市科学館』**など，多くの市民が訪れる施設においても、啓発素材を掲出。

・福岡市農林水産局ホームページリニューアルに伴い，「FUKUOKA おさかなレンジャー」ページを開設し，事業概要等を紹介するとともに，動画やリーフレット，ポスターなどの啓発素材を公開。

・福岡市の情報を動画で発信する**「福岡チャンネル」（Youtube）で海底ごみ削減に向けた啓発動画を公開**。

・水産や海に関する記事を紹介するヤフー運営のサイト**「Gyoppy!（ｷﾞｮｯﾋﾟｰ）」**に，本実行委員会が作成した事業紹介の記事が掲載され，**ヤフーのトップニュースにも掲載**された。

・新規啓発素材として，他団体との連携活動などで使用するのぼりを7月に制作。また，児童向けクリアファイルの制作に着手している。

☝《動画》

☝《ポスター》

☝《リーフレット》

☝《「Gyoppy!」に事業紹介ページが掲載され、8/6 にはヤフートップニュースに上がった》

☝《今年度新規制作したのぼり》

2. 他団体との連携

他団体が実施する清掃活動等に参加することで，近い意識を持つ団体同士の繋がりを深めるとともに，海底ごみ・リデュースに対する啓発を行っている。

また，海底ごみに関する第1回フォーラムとして，他県で活動するNPOから講師を招へいし，海ごみ削減に向けた先進事例を学ぶ研修会を開催した。

●実施期間：平成31年3月～令和元年8月

●実施回数：計10回

●参加活動・啓発方法・啓発人数等　※【　】内は連携団体

①3/27（水）～6/30（日）　マリンワールド海の中道でのブース出展【マリンワールド海の中道】

情報ひろば「うみのたね」に啓発素材を掲出。

②5/25（土）　博多湾漁場クリーンアップ作戦【福岡市漁協青壮年部】

漁業者が行う海底清掃活動に参加。取材記者に対し啓発を実施。（啓発人数4名）

③5/28（火）　海底ごみに関する第1回フォーラム（海ごみ削減に向けた研修会）【NPO法人アーキペラゴ】

香川県で瀬戸内海のクリーンアップなどに取り組むNPO法人アーキペラゴ副理事長 森田氏を講師とし，FUKUOKAおさかなレンジャー実行委員会及び市関係部局を対象とした研修会を第1回フォーラムとして開催。研修会の中で参加者に向けて啓発を実施。（啓発人数14名）

④6/2（日）　コスモアースコンシャスアクト【コスモ石油・FM福岡】

奈多海岸の清掃活動に参加。イベント運営企業及び活動参加企業に対し啓発を実施。（啓発人数3名）

⑤7/17（火）　ラブアース・クリーンアップ【ラブアース・クリーンアップ福岡地区実行委員会事務局】

南区メイン会場（塩原北公園～那珂川）の清掃活動に参加。開会式の中で参加者に向けて啓発を実施。（啓発人数494名）

⑥7/1（月）～9/16（月）　福岡市科学館でのブース展示【福岡市科学館】

博多湾紹介パネル特設展示の中で啓発素材を掲出。

⑦7/28　（日）　多々良川の清掃【NPO法人ふくおか湿地保全研究会】

多々良川の清掃活動に参加。活動後，参加者に対し啓発を実施。（啓発人数5名）

⑧8/2（金）「い～な」ふくおか・子ども参観【福岡市こども未来局】

市職員の子どもを対象とした各課業務説明会を実施。参加者に向けて啓発を実施。（啓発人数5名）

⑨8/4（日）　地引網＆博多湾自然観察会【環境共生実行委員会】

親子を対象とした地引網イベントに参加。参加者に向けて啓発を実施。（対象者92名）

⑩8/5（月）　Gyoppy！（ギョッピー）への記事掲載【yahoo！（ヤフー）】

海や水産に関する記事を紹介するサイト「Gyoppy！（ギョッピー）」に本事業の取組みについて掲載。

※上記のほか，期間中に（一社）ふくおかFUNの自主事業におけるイベント，講演，授業においても博多湾の海底ごみ問題やリデュースについての啓発やアンケートを実施。

（実施回数：合計14回，啓発対象人数：約400名）

≪①マリンワールド海の中道でのブース出展≫

≪③海底ごみに関する第1回フォーラム≫

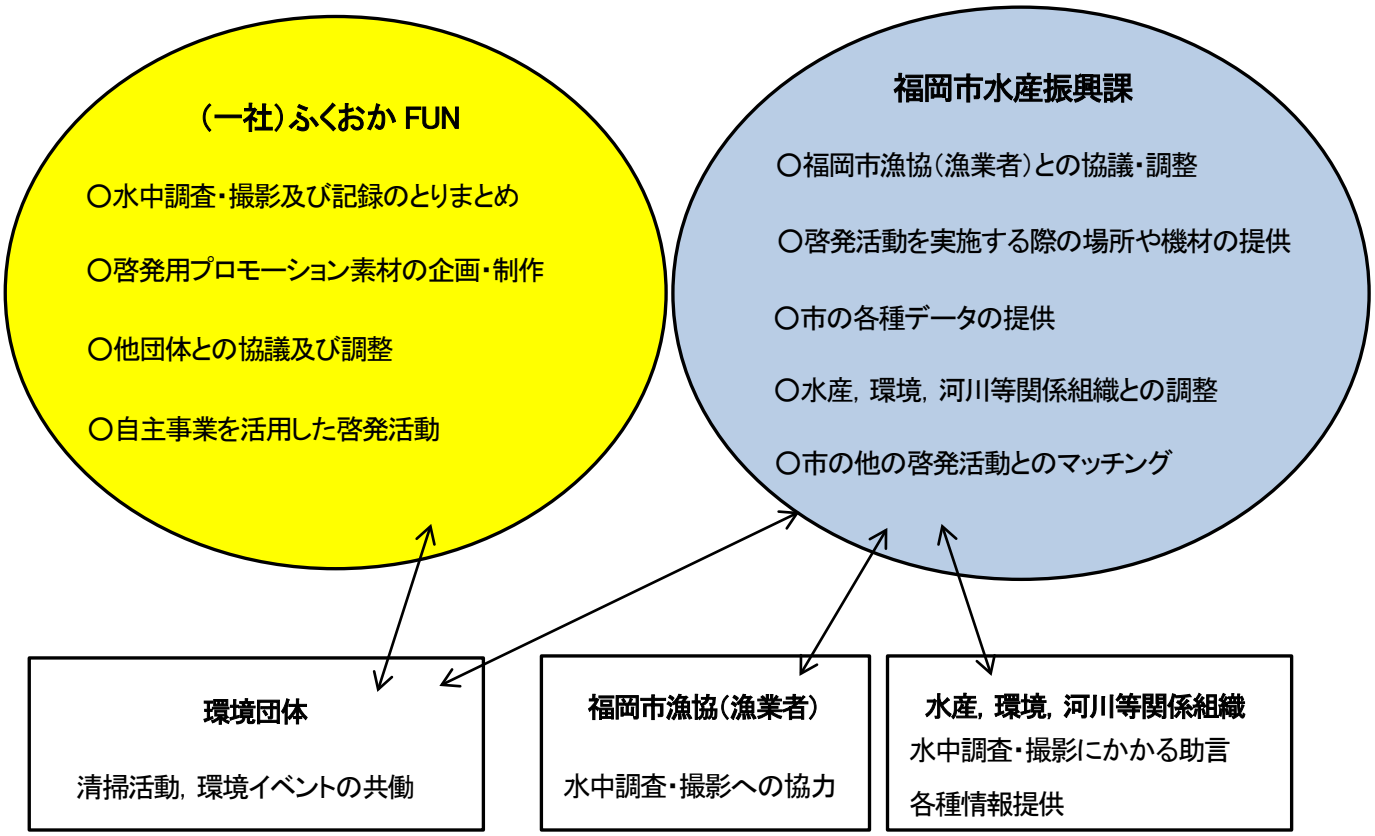
≪④コスモアースコンシャスアクト≫

≪⑤ラブアース・クリーンアップ≫

≪⑦多々良川の清掃≫

≪⑨地引網＆博多湾自然観察会≫

5 （一社）ふくおか FUN と福岡市水産振興課の役割分担



6 担当者の声・市民の声

（1）市民の声

他団体と連携した活動や，（一社）ふくおか FUN の自主事業において海底ごみ削減のための啓発を行った際に以下のような感想が寄せられた。

①「ふくおかの海をもっとよくするためにできること」についてのアンケート回答（一部抜粋）

・プラスチックをむだに使わない。はい水こうにきたない水をあまりながさない。

・海にごみをすてない。ごみはひろって帰る。

・まずはゴミの分別をきちんとしたり、3R を意識したり、身近なところからできることを徹底していこうと思う。

・ゴミは必ず持ち帰る。生活排水（洗濯など）をできるだけ減らす努力をする。

《その他の感想・意見》

・海におかしの紙くずが浮いていておどろいた。ひとつではなく、何個もあったので、マナー等子供達にも話していかなければと思った。

・山、川、海、それぞれに関連性がある事を改めて知ることができた。

②地引網＆博多湾の自然観察会イベントアンケート回答（一部抜粋）

・おさかなレンジャーのごみの話が気になった。

・これからも、ごみを道にすてないようにしたいと思った。

・博多湾がこれからも魚たちに良い環境であるよう、ごみなど努力したい。

・海底ごみの件は非常に気になった、もっと知ってみたい。

（2）担当者の声

①（一社）ふくおか FUN

・初年度に行った種まき（海底ごみの調査・撮影や、啓発素材の制作等）により、事業 2 年目となる今年度は当初より様々な機会において海底ごみ削減のための啓発を行うことが出来ている。また、周囲からの注目や期待も高くなってきていることを実感している。今後は，より一層広い世代に向けたはたらきかけを行うなど、一人でも多くの市民に博多湾の豊かさや海底ごみの現状を伝える努力をしていく。

・NPO 等と行政だけでなく，福岡市漁協や学校，他の活動団体とも連携し，互いの想いや意見を尊重しながら共働事業を進めることができている。少しずつ、事業終了後の展開も見据えながら、持続可能な連携体制を構築していきたい。

②福岡市水産振興課

・平成 30 年度に制作した啓発素材をもとに，様々な機会を捉えて啓発することができている。市役所や市関連施設に加えて，（一社）ふくおか FUN のネットワークから，マリンワールド海の中道や福岡市科学館といった多くの市民が訪れる施設でのブース出展など，共働事業ならではの波及効果が生まれている。

・世界的にもマイクロプラスチックなどの海洋プラスチック問題がクローズアップされていることから，これを契機と捉え，海底ごみやリデュースに関する市民啓発を図り，漁場環境保全の観点から，博多湾を守っていきたい。

・環境イベント終了後のアンケートで，「これからも、ごみを道にすてないようにしたいと思った」，「博多湾がこれからも魚たちに良い環境であるよう、ごみなど努力したい」といった感想をいただくなど，市民意識の向上を感じている。また，多くの漁業者から事業に賛同いただき，水中調査・撮影時の出船や啓発素材（リーフレット，動画，ヤフー関連のウェブ記事）への出演など，様々な協力をいただいている。

7　令和2年度への展開

令和2年度は，共働事業の集大成として，これまで制作した啓発素材を活用し，福岡市内に加えて博多湾に流入する河川の流域市町にも範囲を広げ，海底ごみの「見える化」及び他団体との連携を進める。

また，令和元年度に立ち上げる多様な主体によるネットワークが中心となり，市民が博多湾の海底ごみについて知り，考え，行動するための場づくりとして，海底ごみ削減に向けたイベントやフォーラムなどの企画・運営を行い，共働事業終了後の動きにつなげていく。

【事業計画】

（1）海底ごみの「見える化」

①啓発用プロモーション素材を活用した啓発

（2）他団体との連携

①他団体が実施する清掃活動等への参加・連携

②海底ごみ削減に向けたネットワークによる啓発活動の企画・運営

【予算額】

（1）事業実施経費：2,550 千円

①海底ごみの「見える化」：958 千円

②他団体との連携：1,592 千円

（2）管理運営経費：1,032 千円